

はじめに

日頃より市民の皆様はじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究に多大なるご理解とご協力を頂き心よりお礼申し上げます。このたび一年の調査研究の成果を「矢作川研究No.23」として取りまとめ発刊することが出来ました。これもひとえに皆様方のご助力の賜と深く感謝しております。

さて、豊田市を流れる矢作川の河川地形の現状は、みお筋部の河床高が低下し砂州の発達により河道が二極化するとともに、冠水頻度の減少により河畔植生の樹林化が進行しています。しかし、平成27年から、都心地区に隣接する矢作川において、河道掘削や環境整備が進み河川環境が大きく変化しています。

まずは、河川管理者による安全度を向上させるための整備です。籠川の合流部から竜宮橋までの間、河道内の伐木、高水敷きの掘削など大量の土砂搬出を伴う河道掘削工事が行われています。また、流水内においては、道路管理者による橋梁の架け替えを契機に、近自然工法の方針を取り入れた河床環境整備も継続的に行われています。豊田大橋周辺においても、平成30年3月から豊田市の都心、矢作川、豊田スタジアムが一体となった新たなにぎわいある空間づくりを目指す「矢作川かわまちづくり計画」に基づき、水辺に近づきやすい河畔や散策路などの整備が進められています。

今回の整備を契機に、市民の方のみならず更に多くの方々が川遊びやアユ釣りなどを行い、川の自然に親しみ、川を憩いの場として利用して頂けると思います。また、地元住民、NPOや地域ボランティアなどの様々な方による河川愛護活動がより一層活発となり、河川環境が保全されていくものと思います。研究所としても、今回の整備を踏まえ、様々な要因の影響を受けながら変化していく河川環境の状況をしっかり捉えながら調査研究を進め、矢作川の河川環境の保全再生に努めていきたいと考えています。

矢作川研究所も平成6年の設立から四半世紀を迎えようとしています。設立時と比較すると広大な市域となり、社会環境も自然環境も大きく変化しており、当研究所に求められる役割も多様化しています。豊田市の素晴らしい河川環境の保全再生に向け、河川管理者や関係機関の皆様と連携を図り、課題解決に向けた調査研究を続けていきたいと考えています。皆様方には、今まで以上のお力添えをお願いいたします。

平成31年3月

豊田市矢作川研究所 所長
中川 啓二